

令和4年度和歌山県文化功労賞

みやにし てる お
宮西 照夫

住 所 和歌山県日高郡美浜町
出 身 地 和歌山県日高郡美浜町
生 年 昭和23年

◎ 業績及び経歴

昭和23年日高郡美浜町に生まれる。昭和48年和歌山県立医科大学医学部を卒業後、同大学で精神科医として勤務。和歌山大学保健管理センター所長、評議員等を歴任し、平成24年名誉教授となる。

大学在学中に読んだ1冊の本をきっかけに、マヤ文明に興味を持つ。22歳の時にメキシコの南部国境地帯のジャングルで、マヤの末裔ラカンドン族と約1カ月間の共同生活を過ごす。以来、これまでにメキシコとグアテマラのメソアメリカ地域へ48回の現地訪問調査を行い、マヤ人の宗教・治療儀式、洞窟壁画、水中遺跡など、まだ研究が十分になされていなかったマヤ文明を、書籍等を通じて日本に紹介してきた。また、文化とこころの病をテーマにした調査研究活動を展開し、文化結合症候群、統合失調症、内戦被害者のPTSD等の研究に尽力。これらの成果により、多文化間精神医学会学会賞を受賞したほか、共同研究や学术交流が評価され、平成17年にグアテマラ国立サンカルロス大学から名誉称号“Distinguido Amigo”が授与された。氏の活動は学術研究に留まらず、和歌山大学生、市民団体、グアテマラ保健省、サンカルロス大学と共同したグアテマラ内戦被害者への支援ボランティアや、現地教育施設の建設支援など、幅広いものとなっている。

さらに、日本の文化結合症候群の一つと考えられる社会的ひきこもりについて、若者文化とこころの病に着目し、ひきこもり回復支援プログラムを開発。精神科医、臨床心理士、精神保健福祉士、メンタルサポーターによる専門家集団を形成し、大学や病院、自身が創設したNPO法人ヴィダ・リブレ等を拠点に、40年以上にわたり、若者やその家族に仲間づくりや語らいを可能とする回復支援活動を行ってきた。

氏の長年にわたる文化とこころの病に着目した調査研究と実践の成果は、文化と社会の向上発展に大きく寄与するものであり、功績は誠に多大である。

■ 現 在

- 和歌山大学名誉教授
- NPO 法人ヴィダ・リブレ理事長
- 多文化間精神医学会評議員

◆ 主な表彰歴等

- 平成5年 メキシコ伝統医学アカデミーマ
ルティン・デ・ラ・クルス賞
- 平成16年 多文化間精神医学会学会賞